

■Lac-leon から見た猫科と母乳のレメディー

日本ホメオパシーセンター長野信州上田

JPHMA 認定ホメオパス No. 0830

林 優孝

1 母乳レメディーのキーワード

親子関係での不足や不満、対立、悲しみやショック育児放棄や不安、子供持つ不安など。
感情をコントロールできない。鬱。 子供のような感情表現または無感情。

母乳の過不足から派生する 摂食障害、栄養吸収の問題、ミルクに対する反応の強さ

中毒傾向（食べ物以外でも）妊娠出産授乳期に症状の劇的な変化

ふれあうことに対する反応の強さ、スキンシップの過不足、渴望や恐怖、過敏さなど。

母乳に含まれる皮膚粘膜に関する免疫物質 IgA、皮膚や粘膜の疾患全般

愛されていない、満たされていない、人と繋がっていない、自分の存在を恥じらうなど。

家族また集団に属している感覚、絆や安心感、繋がりをを感じる人間関係。人との境界線。

温もりの欠如（低体温や冷え性、青白い顔、冷たい印象）

2 猫科のキーワード（猫に対する愛着心や実際に猫を飼っていることもポイント）

自由と独立心を中心に生きている。他と距離をおき、束縛を嫌う。

わがまま、気まぐれ、無関心⇔好奇心 単独、孤立。 自由>結婚

⇔犬科は逆に従順でありグループに属することに重きをおく。

グループ行動-（小さなグループを好む） 単独行動++

グループを遠くからさわらず眺めている事が多い。グループの輪に入れない。

警戒心が強く、さわられることに対して非常に敏感、聴覚、視覚、嗅覚が鋭敏。

疑い深い、慎重で細かく、潔癖。

3 ライオンのキーワード

（大型のネコ科にも共通点が多い、Lac-puma、Tiger-u（トラ）、ジャガー、豹）

リーダー気質、支配、責任、導く、育成、トップであること。

怒り、暴力、力、（力で勝つこと、好戦的）競争心

地位やプライドが傷つけられること<<

家族やチームを守ること++

動物の生態や子育てなどに類似性を合わせると作用しやすい。

ライオンはメスが狩りの多くをする⇒母親が家計の柱になることのように。

参考文献（ファロックマスター、乳のレメディー、Dr. Jonathan Hardy セミナー資料、SPECTRUM CATS&DOGS、マーフィーMM、Synthesis レポートリー）

ブルーピング

（自分自身でもどんな作用があるか確認のため新しいレメディーは使用前に確認して使うようにしています）

非常に警戒心が高まる、襲われる？背後が気になる、常に戦闘を意識している。

警戒心から五感が鋭敏になり、息をひそめ、いつでも飛びかかれるような力を体を感じる。

夜になっても目が冴えている。

夢

プライドを傷つけられる、不当な扱いに対しての怒り、恋人を守る。

ライオンよりプーマの方がより好戦的で単独で生き抜くという感覚を強く感じた。

ケース4 股関節の強張る痛みと眠れない緊張感、男性に対する不信心。

43歳女性

股関節が強張り、開かない、痛い。整体やマッサージ、レイキなど一時的には効くが後戻りする。本人は何でも自分でやらなければならないという想いが強い。

この股関節の強張りは、出産後の授乳期に始まった。

出産前、クライアントは鬱状態で、夫に色々世話をしてもらっていたが、授乳期に突然、子供を守り育てていかなければと思え立ち、鬱の状態から抜け出し、急に家事でも何でも自力でこなすようになった。

肉体に疲労を感じることもあったが気力で何でもやりとげた。

子供を守り育てる。と突然立ち上がった瞬間は鮮明に覚えている。

それ以来、股関節の強張り痛みが慢性的にあった。

それまで夫に依存していた関係が逆転し、夫に依存される関係になり、離婚。

10代の頃に父が病気によって、働けなくなり、母親が家計を支えた。

自分は母親のように何でもこなし、みんなを守らなければならない。

父のことは大好きだが、ただ家にずっと父親がいて働いていないことに疑問や矛盾する気持ちを抱いていた。

感情的になると自分では抑えがきかず、なかなか家族にも受け止めてもらえる余裕がなかった環境だった。

他人の感情に敏感で周囲の感情や影響に溺れることもあり、理性的に努めているうちに感情を押し殺しては、逆に思考を抑えようとし、不安定な状態だったと語った。自分と他人との境界線が曖昧になってしまう。

思春期になり、精神的にバランスを崩し、摂食障害、鬱と診断された。

相談の中で、自分自身が病気になり動けなくなり学校や働きに出られなくなる経験を通して、病気になった父親を理解すること「何もできなくても愛し愛される」ということを知らず知らずに経験したと気づき、夫との関係も同じテーマを繰り返していたと気づいた。

現在は宿泊施設を運営しながら、料理にも力を入れている（母親も旅館業を営み、女将として従業員をまとめるリーダーだった）

自分で食材から料理を提供する仕事に就いて、摂食障害は治っている。

自分の家や生活を守ることに警戒心が非常に強く夜になっても眠れない。

授乳期に始まった症状、摂食障害、守ることに対する警戒心と不眠。

母親として稼いで家計を支える。

これまで Lac-1 の改善ケースと非常に類似した傾向が見られたため、Lac-1 の MM に股関節の強張りがあるか、マーフィーの MM で確認したところ見事に一致していた。

他の動物の母乳レメディーではほとんどが逆に脱力や緩みの症状が書かれている。

Lac-1 アルボ 200C 朝

経過 1 股関節の強張り痛みに改善が感じられるようになってきた、感情的に過去のことを再体験するような出来事が立て続けに起きた、依存⇒協力 境界線に関わること、自分の問題と他人の問題の区別や関わり方のこと、自分の自由意志や愛に関する事など、クライアントが混乱するほどに多くの出来事が起きたが、再相談で改めて整理しなおすことで、理解し納得できた、レメディー

一は使わずに改善が続くかの経過観察。

それ以降も、自分自身を受け入れることが深まり、より心身ともにリラックスして自分の人生を味わっています。との報告を受けケース終了。

Lac-1 の全体的な考察

人間にとって、ネコやイヌはペットとして一緒に生活し、近年ではペットセラピーなど医療分野にも関わる身近な存在になり、まるで人間の子供用にペットを愛する人もいれば、アレルギーを起こす人や、虐待など忌み嫌う人もいる。

子供の頃に、多くの人が鳥のように飛べたら、犬のように走り回れたら、クマのぬいぐるみを抱いて寝たこと、ライオンのように強くなれたらと想像力を働かせた経験があると思います。

動物たちを見ていると、子供のように純粋に自然に生きることと多くの共通点が見つかります、また動物たちに憧れる子どもたちを見ていると彼らの心身にきっと類似の法則があてはまるだろうと思えます。

母乳と子供との繋がり、そしてプルービングを通し、動物の生き方と人間の生き方の類似性に合わせてレメディーを使用することはとても有意義なことになるだろうと学生時代に思いました。

ケースの中で、クライアントの話を聞いていると、特定の動物について語られることもあります、喩えとして動物が表れることもあります、気付かないだけで動物を連想させるものが多く散りばめられていることも。

クライアントの病気の症状だけでなく、心や感情、想い、考え方、生き方、聞けば聞くほどに、レメディーの原物質を表現することや、連想させるものが沢山語られます。

今回のケースはどれも、ネコ科の動物をイメージさせるキーワードが多く、ライオンの生態や生き方と類似性が多く、同種の法則を、「人間と動物の生き方」に合わせて、マテリアメディカやジャーナルの掲載ケースなどで精神像や肉体症状が一致を確認の上、選択したケースです。

自分の外や他人、人間関係に問題の原因を見ている状態から段々と自分自身の内側、自分自身の生き方に意識が向きやすくなり、クライアントの考え方や生き方に変化が起き始め、自然と未解決の問題を解決することも起き、気付いたら体の症状も改善していたという結果に繋がりました。

荒々しく感情と闘っていたクライアントが、無邪気な子供のような心を思い出し、笑顔でインナーチャイルドを大人に成長させていくように感じたケースでした。

カテゴリー：[その他、植物等]